

巻 頭 言

経営情報実務学科長 野 澤 智

ここに「城西経営情報研究年報」の創刊号を刊行する。本誌を創刊するにあたり、本学経営情報実務学科教員の日頃の教育および研究の成果がここに発表されることは悦びに耐えない。

城西大学女子短期大学部は学科改組をおこない、平成13年4月1日から「経営情報実務学科」および「現代文化学科」の2学科としてスタートした。本学科では、新学科開設を機会に、これまで学科研究誌として刊行してきた「秘書学経営実務研究誌」を廃刊とし、本誌を新たな学科研究誌として創刊するに至った。本誌は、本学科教員の日頃の教育・研究成果の発表の場としてだけでなく、本学科主催講演会の概要紹介、特別講義等の概要紹介、インターンシップ実施概要の紹介など、本学科1年間の歩みの報告書としての役割も果たすこととなる。今後も、実り多い教育・研究の成果が数多く発表され、また多くの行事報告が掲載せられ、本誌が末永く刊行されることを期待する。

さて、新学科について紹介する機会があまりなかったので、この誌面を借りて簡単に紹介したい。本学科の基本理念は、経営の諸理論を十分に理解し、簿記・会計など、即戦力としての実務処理能力に秀で、かつ十分な英語力と情報処理技能を兼ね備えた職業人としての人材を育てることである。更に、単に種々のスキルを身につけることだけが目的ではなく、2年間の学習・体験を通して、しっかりとした「職業意識」を育てることである。このような基本理念のもと、経営学・簿記・コンピュータ等に関する専門科目を設置するとともに、オフィスワーク演習・インターンシップ・キャリアデザイン等を必修科目として設置した。これらによって、日頃の学習や演習の成果をインターンシップによって確かめ、また新しい自分を発見し、さらには「職業意識」を強く持つことが出来るようになる。

また、本学科では「経営情報コース」、「マーケティングコース」、「国際ビジネスコース」の3コースを設置し、学生の目標に応じて自由に選択できるようにした。3コースのキーワードは、それぞれ「簿記・情報」、「販売士・起業」、「ビジネス英語・情報」である。各コース開講の専門科目を履修し、スキルを伸ばすことによって、それぞれの目標を達成することができる。

さらに、少人数制の基礎ゼミナール・ゼミナールによって学生ひとり一人に対して、き

め細かな進路相談をおこなう。昨今の学生の進路は多様化してきており、かつてのような就職一辺倒ではない。編入・進学・アルバイト（フリーター）などの「就職しない学生」、いわゆる「非就職者」の割合が全体の50%に上っている。したがって、短大での学生指導の方法も、就職指導だけに止まらず、より広範囲にわたる進路指導が必要となってきた。基礎ゼミナール・ゼミナールを通した丁寧な進路指導が非常に重要になってきている。

21世紀は女性の時代ともいわれている。男女平等参画社会の実現が叫ばれ、女性の活躍が期待されている。期せずして、本学は2001年に短大新学科としてのスタートを切った。多くの短大が四年制大学への転換を進める中、2年間という短期集中型の教育機関が、多様化する21世紀の女性の生き方を支える上で非常に重要であると考えたからである。自分は本当は何がやりたいのか、なかなか決められない学生が多くなりつつある。短大で2年間、教養やスキルを身につけながら自分探しをして、自分の本当にやりたいことを見つけ、さらなる次へのステップに向かって羽ばたくことができる。短大の重要性がそこにもあると思われる。短大の社会貢献に対する使命感を教員のひとり一人が自覚して持つことが重要であると考えます。

さて、月日の経つのは速いもので、すでにここに年度末を迎えている。新学科スタートに合わせ、フレッシュな心構えで学科運営に臨む決意であった。顧みるに、新カリキュラム、学生募集など、日常的な業務に押し流され、十分な対応が出来たかどうか反省点も多い。また、新カリキュラムが実施されるにしたがい、実施前には予想しなかった改良すべき点も幾つかあることがわかってきた。これらについては、来年度以降に改良を加え、より良いカリキュラムの編成を考えている。

最後に、新学科が今後も順調に育つように本学科全教員が最大限の努力を尽くすとともに、その教育・研究の成果が、本誌に積極的に発表されることを期待してやまない。